

痛風急性期の腫れ 当帰拈痛湯で対処

Q 五十歳、男性。体重七八kg。数年前から健康

診断で尿酸値が高いといわれるようになりました。

「食事と運動に気をつけないと痛風になる」といわれていましたが仕事が忙しくてなかなか実行できませんでした。ついに先日、足の親指のつけねが猛烈に痛み、痛風と診断されました。鎮痛剤と尿酸を下げる薬を服用し始めましたが、ずっと飲み続けなければならぬのですか。よい漢方薬はありませんか。

ている」状態にある。

痛風に対して漢方は急性期の痛みに対する処方と慢性期の体質改善処方に分けられる。急性期の痛みに対しては局所の腫れや熱感などに応じて越婢加朮湯（えっぴかじゅつとう）などが使われる。

質問者は「足指のつけねが赤黒く腫れあがり黒光りしている」と述べているから、当帰拈痛湯（とうきねんつうとう）が最適と思われる。体質改善には防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）や大柴胡湯（だいさいことう）などがよく使われる。

はじめは西洋薬と併用して、尿酸値が安定したら漢方薬に置き換えていくとよい。生活全般の改善が前提になることはいうまでもない。

A 送られてきた健康診断表をみると標準体重を一〇kg超過している。体脂肪率からみて内臓肥満もあり、コレステロール値や血圧も高めである。五年前には尿路結石による痛み発作を経験されている。立派な体格だが「爆弾をかかえ